



央州寺通信 十二月号

菅原祐軌 ysobiporiand06012017@oregonbuddhisttemple.com



「自他平和」

二〇一八年も終わりが近づいて来ましたね。皆さんは今年一年、どのように過ごされたでしょうか？私はこの一年間のほとんどを修士論文と向き合って過ごしました。私の論文は浄土真宗で七高僧の第二祖として掲げられている五世紀頃のインドの僧、天親菩薩（新訳・世親菩薩）（400-480頃）の「願生浄土」についてだったのですが、彼の遺した著作は膨大で、その内容も幅広く資料を集めるのに大変苦労をしましたが、とりあえず書き終えてホッとしている所です。

来年の事を言うと言いが笑うと言いますが、私は基本的には何か目標がないとダラダラとしてしまう人間なので、来年は何を目標にしようかと考えていました。実は来年の一月からお寺で子供達に功夫の基礎を教えるので、教えるのに恥ずかしくないだけの自己鍛錬をしなければいけないと思っています。また、今夏に浄土真宗本願寺派の学階（学僧としての階位）を取得するための資格を満たしたから、殿試（学階取得の為の筆記・口述試験）に合格すること（通暢と言います）を目標にしたいと思っています。

さて、世親菩薩には無著菩薩というお兄さんがいました。もし奈良県の興福寺にお参りされたことがありましたら、北円堂に国宝、無著菩薩・世親菩薩の立像が弥勒如来像の横に安置されているのを目にされたことがあるはずですよ。この立像は鎌倉時代に造られたもので、皆さんもご存知、東大寺南大門の金剛力士像の作

者（造像指揮者）である運慶の指示のもとに無著像は運助、世親造は運賀が造像したと言います。無著菩薩と共に世親菩薩は瑜伽行唯識派という学派の大成者として知られており、一般的に見れば世親菩薩が阿弥陀仏一仏に帰依する浄土真宗の七高僧の一人として名前が挙げられていることは不思議な感じもします。しかし、世親菩薩の残された『浄土論』によって北魏（386-534）の曇鸞大師（476-572）が『浄土論註』を著され、その影響を受けて中国では浄土教が大きく発展しました。そして、我々のご開山、親鸞聖人も『浄土論註』を非常に重宝されました。また、「親鸞」という名前は世親菩薩と曇鸞大師から一文字ずつ取った名前だと言われており、親鸞聖人が非常に尊敬されていた二人であったことは間違いがありません。

この世親菩薩の著作に『撰大乘論積』という書物があります。この書物はお兄さんの無著菩薩の『撰大乘論』の解説書のようなものです。この『撰大乘論』の中に今月号のタイトルとして挙げた「自他平和」という言葉があります。

「平和」と言う言葉には「戦争が無い状態」という意味の他に、「心配やもめごとがなく、おだやかなこと」という意味があります。心配事、もめごとを起すのは誰かと言うと、この「私（自己）」でありますから、自己を整えることは非常に大切なことであります。

世親菩薩は『撰大乘論積』の中で、この「自他平和」という言葉を解釈されました。そこでは「忍（六波羅蜜の一つの忍辱）にんにく」によって怒りの心（瞋恚・忿）・恨みの心が起こらないために自が平和であること、自が平和であるから他を苦しめず、それが故に他が平和であるとしています。自分が平和であれば他を苦しめない

い、傷つけないのですから「自他平和」になる。簡単なようで難しいことですが、非常に大切な教えですね。

また、この「忍」を行ずる事で五つの徳があるとされています。

1. 無恨…うらみをいだくことがない
2. 無訶…大声でどなる（しかる）ことがない
3. 衆人所愛…全ての人に愛される
4. 有好名聞…よい名声がある
5. 生善道…正しい道を生じる。

私の母方の祖父は、第二次世界大戦時にシベリア抑留を経験しました。そこでの生活については多くを語らなかつた祖父ですが、絵が得意でしたので『シベリア抑留画集』を残し、その本は国会図書館にも保管されています。そんな祖父の好きな言葉がこの「忍」で、様々な場面で「忍」という書を残していた記憶があります。

しかし、現代社会はどうでしょうか。すぐに大声で怒鳴り散らし、恨みを基に行動していることが多々あるのではないのでしょうか。渋滞時なんかにもよく見ますね。割り込まれたからと言ってあおり運転をし、大声で怒鳴り散らす人。また、こないだは漫才の賞レースで認めてもらえなかつた腹いせに審査員の陰口を言う SNS にアップロードしたことで問題となった人もいました。

どうも現代社会には「忍」が欠けている気がいたします。

確かに「忍」を行ずるといっても私達、一般の人間にはなかなか難しいことではあります。もし自他の平和を願うのであれば、まずは自分の平和が大切だと言うことに気づかねばならないと思います。

さて、『仏説無量寿経』の「讚仏偈」には私たち一般の人間のために法蔵菩薩が「忍」の成就を誓われている場面があります。「忍」を含む様々な修行を成就されて阿弥陀如来になられたのが法蔵菩

薩です。私たちは法蔵菩薩のご苦勞を完全に真似ることは出来ませんが、「自他平和」を心に留めて、少しくらいは「忍」を真似てみるべきではなかるうかと強く感じます。二〇一八年ももうすぐ終わりますが、少しでも「忍」の大切さに気づく人が増えることを願うばかりです。

合掌

文責・菅原祐軌
央州寺駐在開教使

〈十二月の予定〉

十二月二十三日…餅つき（朝のお勤めがありません）

十二月三十日…十時より朝のお勤め

十二月三十一日…除夜会十八時より―（除夜の鐘・年越し蕎麦）

〈一月の予定〉

一月一日…十時より元旦会

一月六日…十時より朝のお勤め

一月十二日…報恩講セミナー ご講師…ハリー・ブリッジ開教使

一月十三日…十時より報恩講法要 ご講師…ハリー・ブリッジ開教使

皆様お誘いあわせの上お参りください。

それでは、良いお年を。

